

東京都教育映画コンクール銀賞

記録映画 カラー 上映時間50分

伸びゆく国有林



監修

林野庁

企画製作

日本林業技術協会

技術協力

桜映画社

かいせつ

この映画は、戦後20余年にわたる国有林の近代化の歩みを中心に、国民には比較的知られていないその姿を、はじめて描いたものである。

太平洋戦争中の乱伐で、日本の森林は荒廃して戦後を迎えた。それから何というめまぐるしい変化を経験したことであろう。それは戦後の日本のあらゆる変化と本質的に変りはないものだが、雄大で力強い国民的叙事詩といってよい。ドラマティックでさえある。

国有林の分布は、北海道、本州、四国、九州に及んでいるが、北に多く、この映画のロケは、その中心ともいべき秋田、青森、長野を主に、一部前橋、東京営林局管内で行われた。関係された方々には深く感謝の意を表したい。

あらすじ

プロローグ（なつかしき森林鉄道）

森林鉄道が盛んに建設されたのは、明治の末頃から大正、昭和のはじめまでであったが、この一日何回も走らない小さな汽車は、国有林のみならず、山村社会の象徴でもあった。

しかし、この木曾谷からも、やがて森林鉄道は消え去ろうとしている。

——と、いうところからこの映画ははじまる。そして、そうした状況の中での山村の老人たちの回想から林政統一によって、現在の国有林が生まれた20余年前にさかのぼる。



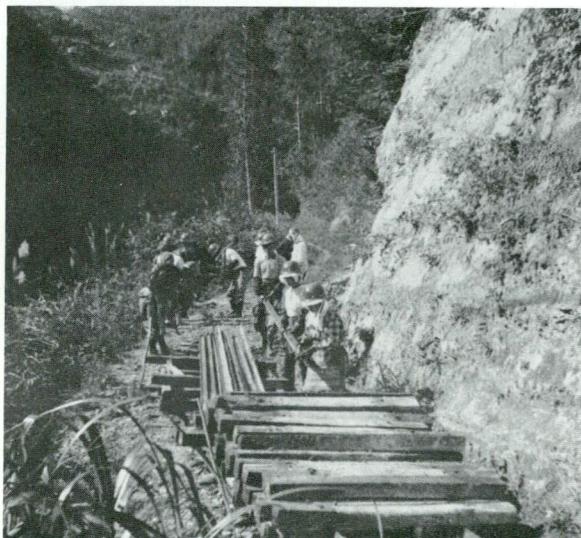
林政の統一

昭和22年に、国有林は、御料林130万ヘクタールと、内務省の管轄だった北海道の国有林245万ヘクタールを合せて、792万ヘクタールとなり新しい出発をした。その面積は、日本の森林の、3分の1、木材の量では、2分の1に達する。

国有林の多くは、日本列島の屋根といわれる脊梁山脈に位置している。そうした奥地林のため、幸い戦時中の乱伐による荒廃は少なかった。奥地には、ヒバ、ヒノキ、ブナ、エゾマツなどの天然林が残されていた。

昔ながらの重筋労働による作業（昭和20年代）

統一後の国有林は、戦後引揚者や失業者で農村にあふれた労働力を集めて、戦災で焼野原となった都市の復興のために、木材の生産に乗り出した。しかし、戦後の国有林の作業は、昔と変わらない苦しい人力の労働から出発したのであった。



消えてゆく森林鉄道—レールの撤去



代ってトラックが威力を発揮する

斧と鋸の作業には、はげしいエネルギーの消耗と、長い年月をかけた熟練が要求される。木馬道をつくって人の肩で木材を引き出す作業は危険が多かったし、また、ソリによる作業も決して安全とは言えなかった。

積雪地帯では、冬季に木を伐り、一箇所に集めておいて、春、森林鉄道の開通を待って運び出す。昭和25年頃までは、まだあの煙突の太い小さな蒸気機関車が走っていた。

昔ながらの筏流しもまだ方々で見られた。この、川の流れを利用して木材を運ぶ工夫は、江戸時代から大正の初め頃までは、木材運搬の重要な手段であった。しかし、筏はその後、ダムに追われて今は完全に姿を消してしまった。

映画は、貯木場の捲立作業や苗畑作業、植林の古いやり方も紹介する。

北海道大台風

戦後約10年の間は、しばしば台風の被害をうけたことも忘れられない。特に昭和29年、北海道の国有林は未曾有の大台風に襲われた。いわゆる洞爺丸台風で、世界の林政史上でも類をみない 2,200万立方メートルにのぼる風倒木があとに残された。この風倒木の迅速な処理が、国有林の機械化、経営の近代化の強力な動機になった。

林業機械化ラッシュ（昭和30年代）

こうして昭和30年代は、国有林の機械化が急速に進んだ10年間であった。たとえば、チェーン・ソーは昭和30年には 300台しかなかったのが、わずか5年後には 3,000台に達している。大型集材機、刈払機の数も増えた。

林道の開発進む

特に、林道の開発は画期的なもので、産業の復興発展にともなう木材需要の増大にこたえて、奥地林を開発し合せて人工造林を能率的に進める上で、重要な役割を果たした。伐採現場が奥地に移動すると、トラックも追ってきて、積み換えなしに目的地まで運搬する。その点、トラックは森林鉄道にくらべると、はるかに弾力的だった。

こうして森林鉄道は、全国各地で、次第にその姿を消していった。



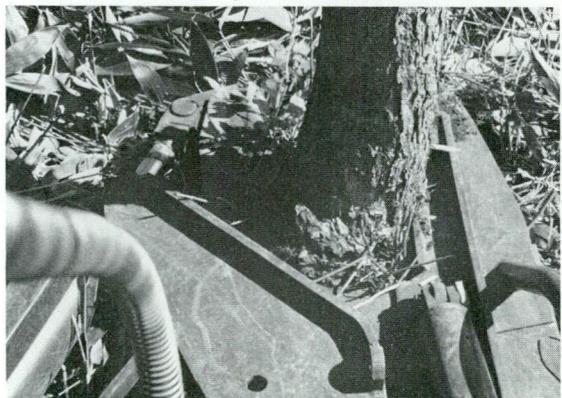
機械化された苗畑



ヘリコプターによる薬剤散布



階段造林の地ごしらえ



トリリー・フェラーによる伐採

機械化が体系的に整ってきた今日の姿

林道とトラックの伸びにともない、苗畑も貯木場も大きくまとめられ、機械化が進んだ。機械化がようやく体系立った、これが今日の姿である

近頃は、空から行う作業が目立って多くなった。除草剤や、病虫害防除、ネズミ退治の薬剤も空からまく時代である。

伐採予定地の森林もあらかじめ除草剤をまいて、伐採もしやすくし、あとの植林も楽にできるようにしている。



作業現場に向う若者たち

未来につながる国有林の作業

また、将来の造林方法として、階段造林の試みなども行われている。階段は横に走れば平地と同じ、トラクターで中耕、除草もでき、木の成長もいい。

技打ちも、機械化できる。(ツリー・モンキー)

大きな罅で、立木をちょんぎる伐採機の出現も考えられる。(ツリー・フェラー)

国有林の将来もいろいろ変わっていくであろう。しかし、その担い手はいずれにしても若者たちである。

エピロオグ(緑の遺産)

人間の歴史は、きびしい自然条件を克服し、それを改造してきた歴史でもある。

戦後20余年、日本の国有林の姿は、確かに大きく変貌した。近代化は進んでいる。しかし、今日の国有林は、資源的にも、国土保全の上からもきびしい環境におかれている。

国有林の仕事は、いわば自然が、そして祖先が残した森林を、多くの国民のために、木材の生産、国土の保全、またレクリエーションの場とするよう経営することである。がしかし、やがてくる30年先、50年先の日本を思って、あらゆる困難を克服し、もっと多くの緑の資源を次代に残すことでもある。重く深い雪をはねのけて伸びるこのスギやヒノキのように。

製作スタッフ

| | | | | |
|-----|----|-----|------|---|
| 製作 | 藁 | 輪 | 満 | 夫 |
| 脚本 | 小 | 野 | 春 | 夫 |
| 監督 | 村 | 山 | 英 | 治 |
| " | 徳 | 永 | 瑞 | 夫 |
| 撮影 | 加 | 藤 | 和 | 郎 |
| 照明 | 波 | 田 | 実 | 男 |
| 助監督 | 村 | 山 | 正 | 実 |
| 編集 | 沼 | 崎 | 梅 | 子 |
| 音楽 | 三 | 木 | | 稔 |
| 解説 | 小 | 山 | 田 | 宗 |
| 録音 | 東京 | テレビ | センター | |
| 現像 | 東 | 洋 | 現 | 像 |
| | | | 所 | |

国有林

国有林は、全国の14の営林局と、その下にあるおよそ400に及ぶ営林署によって経営されている。その役割は、木材の生産のみならず、国土の保全あり、水資源の確保などを目的として伐採を制限している保安林あり、また、国民レクリエーションの場としての役割を果している自然休養林など広く国民生活の発展向上に寄与している。

社 団
法 人

日 本 林 業 技 術 協 会

東 京 都 千 代 田 区 六 番 町 7 番 地

電 話 03 (261) 5 2 8 1 番